

第 63 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日時：令和 8 年 8 月 10 日(月)19:00～21:15

場所：佐土原総合支所 2 階研修室

参加者：

□市民：15 名

□宮崎海岸市民連携コーディネータ：

吉武教授（九州工業大学）

高田准教授（兵庫県立大学）

□行政関係機関：

（国）宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所

（県）河川課、港湾課、漁業管理課、宮崎土木事務所

（市）佐土原総合支所農林建設課

実施内容：

宮崎河川国道事務所野呂副所長より開会の挨拶を行った後に、司会（宮崎県河川課大久保主幹）より国、県の担当者、他行政機関とコンサルタントの出席者の紹介を行い、その後、高田宮崎海岸市民連携コーディネータ（以下「コーディネータ」）の進行により談義が進められた。

はじめに、コーディネータより今日の流れを説明した。続いて、「市民談義所等の振り返り」として、コーディネータよりトライアングル、ステップアップサイクルによって事業が進められていく仕組み、談義所のルールについて説明した。

次に、コーディネータおよび事務局により、今年度以降の業務実施体制・手順の確認を行った。

次に、コーディネータおよび事務局より第 62 回市民談義所（R8.3 開催）の振り返りを行った。また、令和 8 年度宮崎県地域環境保全功労者等表彰において、「住吉海岸を守る会」が表彰されたことを受け、住吉海岸を守る会会長の所感を共有した。

次に、「第 26 回侵食対策検討委員会の報告」についてコーディネータおよび事務局から説明した。

最後に、これまでの市民談義所で出た意見を分類しながら確認・共有を行い、これらを踏まえ、質問・意見・提案・想いなどについて談義を行った。

※会議の開催前 1 時間程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

1. 体制・手順の確認

2. 市民談義所等の振り返り、住吉海岸を守る会の功労者表彰

[参加者]

- ・住吉海岸を守る会の活動の主な目的は、①海岸利用者の立場からビーチクリーンにより海岸を綺麗にすること、②海岸を守る団体・仲間として、自信を持って「海岸を守っている」と言える状況を維持していくことの2点が挙げられる。
- ・一方で、活動をとおして海岸や砂浜に興味・関心がない人もいることを感じることもある。今後、海岸侵食やウミガメの産卵状況などの情報を広く共有することで、より多くの人に宮崎海岸について知ってもらい、興味・関心を持ってもらう機会を創出していきたい。

3. 第26回侵食対策検討委員会の報告

- ・質疑特になし

4. 談義

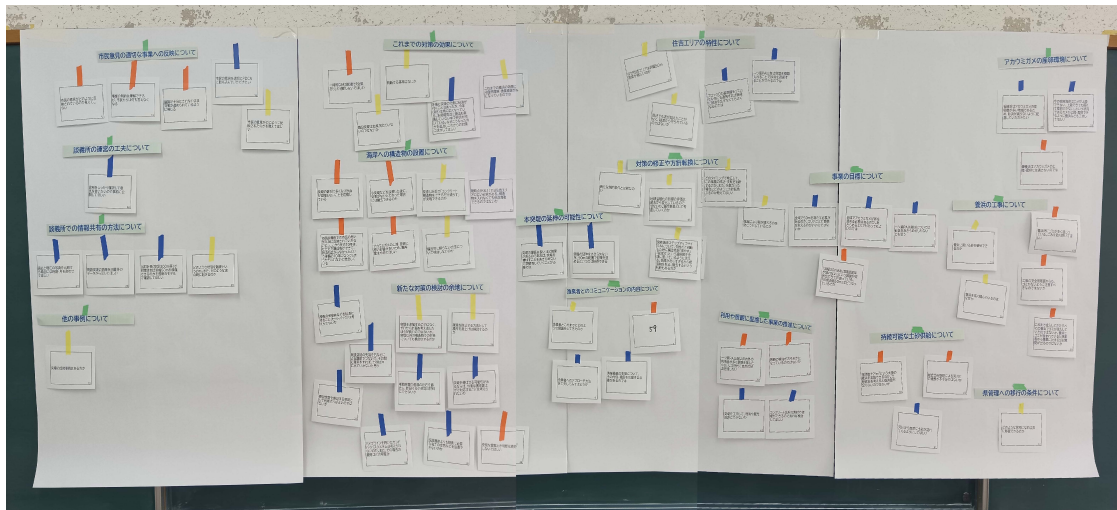
※今年度の事業内容、これまでの住吉エリアの議論の整理、現状の共有を行った。

～ 休憩 ～

4. 談義

※これまでに市民談義所(第50回(R6.2開催)～第62回(R8.3開催))で出た意見をコーディネータによる分類をもとに確認・共有しながら、質問・意見・提案・想いなどについて、挙手形式で談義を行った。

■分類・共有した意見



[コーディネータ]

- ・これまでの意見で、「突堤の成功事例を教えてほしい」というものがあった。

- ・突堤はどのような状態になれば成功と言えるか。

[事務局]

- ・まず、突堤だけで砂浜が回復することはないということを理解してほしい。突堤は、沿岸方向に移動する砂を捕捉する構造物であり、砂が溜まる位置を変えるものである。突堤を整備することで海岸全体の土砂量が増えるということはない。
- ・砂浜を増やすためには、養浜や河川から海岸への供給土砂量を増やすなど、土砂を増やす取り組みをセットで実施する必要がある。

[参加者]

- ・突堤と養浜などの土砂を増やす取り組みをセットでやって、成功した事例はあるのか。

[事務局]

- ・神奈川県茅ヶ崎市の海岸が一つの成功例として挙げられる。茅ヶ崎漁港と通称Tバー（ヘッドランド）と言われる突堤の間に位置する海岸であり、相模川上流に位置する相模ダムに堆積した土砂をダンプトラック等で海岸へ搬入して養浜している。海岸管理者とダム管理者が連携して土砂を海岸へ運搬してきている。

[参加者]

- ・総合土砂管理の考え方が重要だと思うが、検討などの進捗状況はどうか。国と県との連携をしっかりとしていかないと成り立たない考える。

[事務局]

- ・宮崎海岸に流入している河川には、国が管理している河川と県が管理している河川がある。また、河川の上流部には県が管理するダムなどもあるため、海岸保全や土砂管理については関係機関との調整が重要である。
- ・上流から海岸までのつながりを意識しながら、今後も関係機関との連携を継続していきたい。

[コーディネータ]

- ・具体的な対策はできていないが、関係機関とのコミュニケーションはしっかりと取れているということでよい。

[事務局]

- ・その認識でよい。

[参加者]

- ・総合土砂管理については、何ヶ月も前から談義に挙がっている。対策が少しずつでも進んでいない状況が不自然であり、なぜ難しいのかが理解できない。

[コーディネータ]

- ・関係機関が非常に多く、調整に時間がかかると理解している。

[コーディネータ]

- ・ こういったところが難しいのか、仕組みを勉強できると良いと思う。

[参加者]

- ・ 宮崎県が管理している一ツ瀬川の総合土砂管理はどうなっているか。

[事務局]

- ・ 一ツ瀬川の総合土砂管理はまだ実施していない。宮崎県管理の河川では、耳川で事業間連携による総合土砂管理を実施している。

[事務局]

- ・ 総合土砂管理のベストは、自然に上流から下流に土砂が流れてくることである。ただし、それは即時に実施することは難しいが、河道掘削土砂をダンプトラックで海岸へ持ってくることは既に実施しており、河川と海岸の連携は進めている。小さな総合土砂管理は実現できているという認識である。

[参加者]

- ・ 河道の掘削土砂をそのまま海岸へ持ってくると大きな石も海岸へ入ってしまう。

[事務局]

- ・ 養浜に使う土砂については、どのような粒径の土砂をどのように使うのかのルールを決めて養浜している。ただし、ダンプトラック用の盛土道路から大きな石が流出してしまうことも認識している。
- ・ 河道掘削土砂は、木片やごみ等が混入しないよう指導し、現場の方で取り除くことをしている。去年の市民談義所でも指摘を受けたので、今年度から特に厳しく指導している。
- ・ 養浜土砂の確保は、国だけでなく県とも協力しながら進めている。

[参加者]

- ・ ここ数年、豪雨が多く、川から砂が大量に海岸へ出ている気がするが、測量調査等から傾向は把握しているか。

[事務局]

- ・ 個別の洪水時に河川から海岸へ流入してくる土砂量は把握できていない。洪水後に砂浜が増えて見えるのは、高波浪で沖へと流されたこれまでに投入した養浜土砂が、時間をかけて陸側へと戻ってきているということもあると考えている。

[参加者]

- ・ 今回の台風後の状況を見ると、新しく整備中の1基目小突堤の南側には砂がついているが、それよりも長い本突堤には砂がない。短い突堤の方が沖へと向かう離岸流の規模が小さく、砂を溜める効果があるのではないかと感じている。

計画を立てたからといってその長さまで整備するのではなく、効果を確認しながら、延伸するか判断していった方が良いのではないか。

[コーディネータ]

- ・宮崎海岸ステップアップサイクルの考え方も、今ご指摘のあったとおり、効果を確認しながら進めるというものである。市民談義所等において、皆で効果を確認し、検討していくことが重要である。

[コーディネータ]

- ・構造物に頼らない対策についての検討について、事務局の考えを共有して欲しい。

[事務局]

- ・養浜や総合土砂管理が考えられる。ただし、養浜だけでは侵食・越波対策が不十分であるため、構造物を入れざるを得ない。越波対策として、護岸の嵩上げや、水路に集積して海に戻すなどの方法が考えられる。

[コーディネータ]

- ・住吉エリアについて、越波対策として護岸嵩上げをするということも選択肢に入ってくるのか。
- ・昨年度は、住吉エリアに広い砂浜があったため、このくらいの砂浜が長期的には戻ってくるのであれば、新たな施設は不要なのではないかという意見もあった。

[事務局]

- ・住吉エリアについては、まずは目標浜幅をどう設定するかが重要である。現状、新たに構造物を入れて養浜を行っても浜幅 50m 確保は困難である。どの位の浜幅を目指すのかを検討・議論する必要があると考えている。
- ・シミュレーション上は、浜幅 30m 程度は確保できるが、新たな対策については、今後検討していく必要がある。
- ・対策の選択肢としては、護岸の嵩上げも考えられる。住吉エリアは、養浜＋突堤だけでは目標浜幅 50m は達成できない。
- ・現場を見ていて、土砂移動が激しい場所だと認識している。このことをふまえて、対策を検討する必要があると考えている。

[参加者]

- ・今まで、PDCA の改善（Act）部分が十分に機能しておらず、実施した対策が期待した成果につながっていないと思っている。
- ・市民ができるのは、アイデア出しだけで、その後をどうするかは事業者次第である。
- ・現在、新しい小突堤を作っているが、これまでの礫（基礎工）に被覆ブロックを被せる構造をやめて、礫だけの設置にしてはどうか。礫だけならば土砂に沈

むが、被覆ブロックで覆うと沈まない。

- ・対策の本質を見直す必要があると思う。養浜についても、投入場所や量、時期が適切かどうか見直す必要があるのではないか。

[事務局]

- ・小突堤の構造については、安全性や耐久性の観点から被覆ブロックを設置しないことは難しい。個人的には、礫だけの小突堤も試験的にできればよいと感じている。
- ・現在施工中の1基目小突堤は、基礎工として礫を入れている状況であり、砂がついている。
- ・養浜については、様々な機関から土砂が提供されている。現場の状況や、測量成果を確認し、土砂の粒径や地形状況から、どこに養浜するのが最適なのか検討していきたい。

[コーディネータ]

- ・談義所は開催スパンが長いため、よろず相談所などを活用し、短いスパンで市民と情報共有できる場を作れば良いと考える。

[コーディネータ]

- ・住吉エリアの浜幅 50m が達成困難な理由について、改めて確認したい。

[事務局]

- ・当初計画の突堤規模の整備ができないため、達成が困難である。特に住吉エリアはシミュレーション上浜幅 30m 程度しか達成できない。一ツ葉有料道路等、守るべきものに対して、どのように対策していくか検討していく。

[事務局]

- ・住吉エリアの特性について補足すると、住吉エリアは他の場所と比べて護岸が海側に出ていること、北から南への流れが強く沿岸漂砂を現在の突堤規模では十分に捕捉しきれないため、浜幅 50m の達成が困難である。

[参加者]

- ・アカウミガメは砂がある場所でしか産卵できないが、大きな石があるところに砂がついて産み始めた場所もある。
- ・今年、大炊田海岸は妙に波が強く砂がないため、上陸はするが産まずに帰ってしまう。一方、産卵が多い石崎浜は、大きな石が増えてきており懸念している。
- ・アカウミガメの産卵数は全国的に減っているが、宮崎県は高鍋～宮崎市内の海岸の範囲で年によって場所を変えながら、産卵数を維持している状況である。

[参加者]

- ・住吉エリアについて、突堤の当初計画でのシミュレーション上は砂浜幅 50m が達成できるということであったが、現状、実現不可能である。目標として浜幅 50m だけが残ってしまっている。
- ・最終目的が何か（防護、景観、利用）がはっきりしていないと思う。優先順位をつけて、対策することが必要だと思う。個人的には護岸が壊れないことを優先すべきではないかと考えている。

[事務局]

- ・皆さん色々な意見があるので、今すぐ結論を出すものではなく、議論を深めてから決定していく必要があると考えている。小突堤の構造等も含め、改良できるものは改良していく必要があると考えている。

[コーディネータ]

- ・海を主体とした街づくり（夢やビジョン）を談義していく必要があると感じた。

[参加者]

- ・大炊田と石崎浜の間に石崎川があるが、河口部に砂がたまって水がせき止められ、田畑へ海水が入ってしまったことがある。3 基目の施設の設置の際は河口に砂が貯まらないようにするなども考慮して検討して欲しい。

[事務局]

- ・3 基目の施設については、設置するかどうかも含めて検討段階であるが、指摘された事項も含めて考慮したい。

5. スケジュール

※令和 8 年度の市民談義所、効果検証分科会、技術分科会、委員会について、全体スケジュール（案）や議事（案）を共有した。

[事務局]

- ・令和 8 年度も引き続き市民談義所を開催していく。次回談義所では、今日の談義で時間が足りなかった今後の住吉エリアの方向性等について談義したい。

～コーディネータのまとめ～

[コーディネータ]

- ・いろいろなテーマを取り扱った談義をこれからもこの談義所でできたらよいと思う。
- ・今日の談義所では、前回委員会での議論を報告し共有するとともに、これまで

の談義所での意見をカテゴリーごとに分け、その意見を振り返りながら、聞いていなかったことなどを質問してもらい、事務局とのやりとりにより理解を深めることができた。

- ・総合土砂管理については、大きな取り組み(自然に河口から土砂が供給される)は即時の実行が難しいが、小さな取り組み(ダンプトラックで河道から海岸に土砂を運ぶ)は既に実施しているということを共有した。
- ・これから住吉エリアの対策を考えていく時には様々な条件が考えられるが、条件をみんなで共有した上で、何を守るのか、守るためにはどういう対策が必要かを継続して議論していくことを共有した。
- ・神奈川県茅ヶ崎海岸の事例紹介があったが、宮崎海岸の対策を考える上で参考になる他海岸の事例について、みんなで理解を深めるような機会があると、いろいろなアイデアが市民から出てくるのではと感じた。
- ・突堤については、コンクリートブロックで覆わず石をむき出しのままにしてみても、という新しい構造の提案もあった。談義所だけではなく、小さな提案もできるような小さなコミュニケーションの場を作ることも重要と感じた。
- ・海を舞台にしたまちづくりも考えながら、どのように海岸侵食対策事業を進めていくかについて、ビジョンや将来像などを市民と話し合い、具体的な目標に落とし込んでいく作業が今後重要になると感じた。

以 上